

# シンポジウム 中央アジア地域研究の地平をひらく

中央アジアの地域研究は、1991年ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの五カ国がソ連から独立し、ようやく在地研究や現地の研究者との交流が可能となったことから本格的に始まった。その意味では、相対的に新しい研究分野といえる。しかし、この間に日本においてもイスラーム地域研究やスラブ・ユーラシア研究などに触発されながら、注目すべき研究成果が現れるようになった。今回は、中央アジア地域研究の地平をひらくために、いま最先端の研究に取り組んでいる3名の研究者をコメンテータにむかえ、今後の可能性を含めて議論することにしたい。

**2016年12月10日（土）13:00～17:20**  
**東京外国語大学 研究講義棟 227**

**基調報告 小松久男（東京外国語大学特任教授）**

**近現代中央アジアにおけるイスラームの展開**

コメント1 帯谷知可（京都大学地域研究統合情報センター准教授）

**中央アジアにおけるイスラームとジェンダー —古くて新しい課題**

コメント2 ティムール・ダダバエフ（筑波大学人文社会系准教授） **中央アジアにおけるソ連時代の記憶**

コメント3 湯浅剛（広島市立大学教授） **中央アジアをめぐる国際政治**

総合討論 司会 島田志津夫（東京外国語大学講師）

主催：科学研究費補助金 基盤 (A) 「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティブ」

東京外国語大学海外事情研究所